

国分寺市障害者センター 管理者よりご挨拶

令和4年3月31日

こんにちは。国分寺市障害者センター管理者、坂田晴弘です。

私は、昨年7月に満60歳となり、本年3月31日をもって定年退職を迎えました。今までたくさんの利用者さん、ご家族、関係機関の皆様、地域の方々、国分寺市役所の皆様、そして社会福祉法人万葉の里の職員や役員の皆様に支えられて、たぶん無事にこの仕事を終えることができました。これは、たいへん幸せなことで、障害福祉一筋、国分寺市障害者センターでは丸18年間、通算36年間、福祉の現場に携わることができたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。



私が国分寺市障害者センターの設立と社会福祉法人万葉の里の設立に関わったのは平成13年のことでした。当時は、市内の社会福祉法人けやきの杜の職員として働いていましたが、出向という形で、障害者センターと新法人の設立に関わるよう命じられ、法人認可や障害者センターにおける支援のあり方について連日議論と手続きに追われたことを覚えています。平成14年12月に社会福祉法人万葉の里が認可され、平成15年4月には障害者センターが開所しました。社会福祉法人を作り、障害者センターを運営するという大きな仕事には多くの困難やトラブルがありました。設立に関わった方々、特に初代理事長の板山賢治氏と国分寺障害者団体連絡協議会の皆様の思い、熱意、期待感には大きな影響を受けました。国分寺市の福祉の中心的な役割を担い、さまざまな障害がある方が等しく集える場を作る。理想的なコンセプトでしたが、まさに「言うは易し、行うは難し」の状態で、何度も壁に当たり、暗礁に乗り上げ、形を変えて、なお実現が難しいと思い知らされたものでした。それでも何とかやってこられたのは、諸先輩方の知見や励まし、同僚の頑張り、後輩たちの成長など、まさに総合力で進んできたからに違いありません。

管理者というと「船長」や「リーダー」というイメージに聞こえるかもしれませんが、私は「現実に翻弄され、おろおろと決断できず、周囲に後押しされて、かろうじて何とか切り抜ける姿」をさらけ出していたにすぎません。一番の力を与えてくださったのは利用者の皆さんであり、そのご家族だと思っています。開所当時の苦勞に始まり、支援員から施設長への抜擢、障害者自立支援法による大幅な制度改革、グループホームの開設、基幹相談支援センターの立ち上げ、東日本大震災における宮城県でのボランティア活動、昨今の新型コロナウイルス問題、他にもさまざまなターニングポイントがあったと思いますが、現在の万葉の里の礎のどこかに、私が行ってきたことの断片が残されているなら幸せだと思っています。

今まで支えていただき本当にありがとうございました。最後までここに居させていただけただことに感謝して、お別れをさせていただきます。ただし、私の福祉の道は、実はまだ続いていきます。別の地域でまたご縁をいただき、障害福祉に携わる予定となっています。これからもどこかで思いがけず出会うことがあるかもしれません。その時には気軽にお声をかけてください。管理者ではない坂田という一人の人間として。またいつかどこかで。皆様もお元気で。

改めて、ありがとうございました。そして、お世話になりました。

就任のご挨拶

令和4年4月1日

国分寺市障害者センター 管理者 伊佐 素子



この度、国分寺市障害者センター管理者に就任することとなりました。力不足な点は多々ございますが、少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯、努めさせていただきますので、何卒よろしく願いいたします。

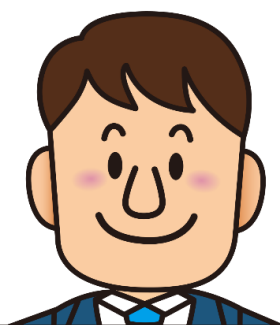
私は、万葉の里に勤めてから5年しか経っておりませんが、それ以前の平成23年秋から5年半は、国分寺市のスクールソーシャルワーカー（SSW）として勤務しておりました。10年以上、同じ土地で仕事をしているので、非常に親しみを感じています。

特にSSWとして小・中学校15校を巡回したことは、市内全域を知る良い機会となりました。同じ市内でもそれぞれエリアの個性がありますが、どの学校でも感じたのは、地域の方々とのつながりが深いことです。これは障害者センターでも同じで、利用者やご家族のみならず、何かあれば地域の方々がサポートしてくださる地域力、文化があると感じます。この地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

個々の力を活かし、つながり（連携）、一緒に働く（協働）ことを目指して地域と関わっていき、障害者センターが地域生活支援拠点の一翼を担っていきたいと考えています。

坂田さんの今後の活動について、
坂田管理者に聞きました♪

気になる！次のお仕事先は？



万葉の里の世代交代の時期と定年退職を迎えるにあたり、ご縁があってお声をかけていただき、4月からは、23区内の相談支援事業所の管理者として、新たなスタートを切ることになりました。

これからも健康に気をつけながら、自分のできることを、福祉の道で頑張っていきたいと思います。